

清流の国ぎふ

# 2020 地歌舞伎

勢揃い公演 二目

佐見歌舞伎公演実行委員会 白川町

白川町の佐見地域では、江戸時代より庶民の楽しみとして地歌舞伎が親しまれてきました。戦前は当地域に四軒の芝居小屋があり、特に昭和十年代には盛んに上演されていました。しかし、昭和二十八年の公演を最後に、佐見歌舞伎は一時幕を閉じることとなり、昭和三十四年の伊勢湾台風などの被害によって、芝居小屋も全て失われてしまいました。平成三年春、佐見中学校の体育館が竣工し、その記念公演として三十七年ぶりに佐見歌舞伎が復活しました。公演には二日間、約千人の観客が訪れ、大変な熱気に包まれました。

その後、不定期ながら公演を続け、平成十八年に佐見歌舞伎公演実行委員会を結成。以来、佐見中学校を舞台に公演を重ね、令和元年十二月に十二回目の公演を行いました。

また、海外でも地歌舞伎の魅力を発信しており、平成二十八年にイタリアで、平成二十九年にはマレーシアで寿式三番叟を披露し、高い評価をいただくとともに、国際交流を図ることができました。

先人が築きあげた地域の文化を後世に引き継ぎたいと、小学生は佐見小学校の授業の一環で地歌舞伎の練習を、大人たちは「佐見歌舞伎伝承教室」にて太夫、三味線、附け打ちの練習に励むなど、日々活動を続けています。



白雲座歌舞伎保存会 (下呂市)

白雲座歌舞伎保存会は、下呂市白山神社の境内にある芝居小屋「白雲座」を拠点に活動する地歌舞伎保存団体です。

この地区では、江戸時代より地歌舞伎の公演が行われていました。明治から昭和初期にかけては毎年のように公演が行われていましたが、戦後数年間続いた公演を最後に途絶えてしまいました。昭和四十年頃には芝居小屋の売却も検討されましたが、昭和四十六年に地元青年団が新劇を公演したことで地歌舞伎への取組みが再燃しました。昭和五十三年、白雲座が国の重要有形民俗文化財に指定されたことを契機に、地元住民によって「白雲座歌舞伎保存会」が結成され、今日に至るまで、毎年十一月に白山神社祭礼で奉納歌舞伎を上演しています。

さらに、下呂市和佐出身で、歌舞伎座の絵描きをしていた松本千冬氏が約七十年前に手掛けた白雲座所蔵の舞台背景を、将来にわたって長く保存するため、「白雲座書割レプリカ実行委員会」による複製作業を進めています。複製作業は全てボランティアによるもので、こうした文化財の保護・保全のために寄せられる思いが、一層、当地の地歌舞伎を盛り上げています。



清流の国ぎふ

## 2020 地歌舞伎 勢揃い公演

開催期間

2020年1月19日(日)～7月19日(日)  
全11公演(29団体出演)



スタンプラリー実施中

開催期間中、1公演ご鑑賞ごとにスタンプが1つたまります。スタンプ数に応じて素敵なグッズをプレゼント!  
※木札を忘れずにお持ちください。

【3月公演のお知らせ】

開催日: 2020年3月8日(日)

出演: 安岐歌舞伎保存会(中津川市) 村国座子供歌舞伎保存会(各務原市)  
加子母歌舞伎保存会(中津川市) 東白川村歌舞伎保存会(東白川村)

2月8日(土)より  
入場整理券配布中

地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

清流の国ぎふ

# 2020 地歌舞伎

勢揃い公演 二目

2020年2月15日(土)

◆開演 11時30分(開場11時00分)

◆会場 ぎふ清流文化プラザ2F 長良川ホール

演目

◆11時30分(45分)

戎詣恋釣針 釣女

佐見歌舞伎公演実行委員会(白川町)

◆特別プログラム

◆12時15分(30分)

「大道具を語る」

◆13時15分(15分)

「白雲座の地歌舞伎」

◆13時30分(90分)

源平市引滝 実盛物語の場

白雲座歌舞伎保存会(下呂市)

終演15時00分(予定) 演目・上演順は変更となる場合があります。

特別プログラム

「大道具を語る」

舞台転換の様子を  
特別公開

説明 舞台監督



「白雲座の地歌舞伎」

地域の伝承文化を学び、受け継ぐ  
発表 岐阜県立益田清風高等学校2年

田口真江氏



スタンプラリー  
実施中

開催期間中、1公演ご鑑賞ごとにスタンプが1つ溜まります。スタンプ数に応じて素敵なグッズをプレゼント!



主催/岐阜県・(公財)岐阜県教育文化財団

協力/岐阜県地歌舞伎保存振興協議会

本公演は「令和元年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業」の採択を受けて実施します。

TOKYO 2020  
応援プログラム



beyond  
2020

日本橋

文化庁



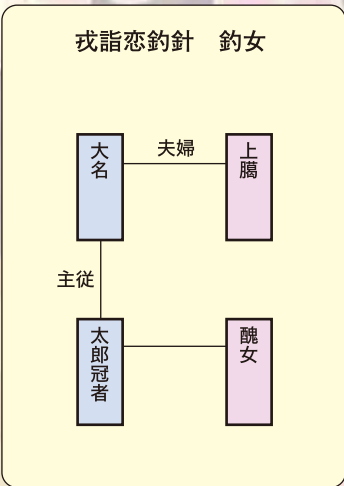
戎詣恋釣針 釣女

佐見歌舞伎公演実行委員会（白川町）

とある地の大名にはまだ妻がなく、同じく独り身である家来の太郎冠者と共に、縁結びにご利益のある西宮の戎神社へと参拝に出かけます。神様に「妻を授けてほしい」と願掛けをした二人は、神様のお告げを待って晩神社で過ごすことにします。しばらくまどろんでいると、夢の中で「あなたの妻になる人は西門にいるから連れて帰りなさい」とお告げがありました。

喜び勇んで二人が西門に向かうと、そこには一本の釣り竿が落ちています。大名は釣り好きなえびす様がこの竿で妻を釣るよう告げられたのだと考え、急いで試してみると、世にも稀な美女（上臈）が釣りあがります。大喜びの大名は早速、上臈と祝言を挙げます。

これに焦った太郎冠者は、自分も後に続こうと釣り糸を垂れてみると、衣を被った女性が釣りあがります。喜んだ太郎冠者は二人で末永く楽しく暮らそうと誓い、被っている衣をとったところ、それはフグに似た醜女でありました。これに驚いた太郎冠者は嫌がりますが、醜女は太郎冠者を気に入り、二途に迫るうちに幕となります。



|      |       |
|------|-------|
| ◆ 配役 | 安江 勇人 |
| 大名   | 渡邊 一将 |
| 太郎冠者 | 清水 英智 |
| 上臈   | 熊崎 由奈 |
| 醜女   | 今井 悟  |
| 後見   | 安江 直樹 |

源平布引滝 実盛物語の場

白雲座歌舞伎保存会（下呂市）

百姓 九郎助と孫の太郎吉は、草津川が注ぐ琵琶湖で片腕を見つけ、網で取って持ち帰ります。握られた指を広げると源氏の白旗が出てきました。そこで、平家の武將 齋藤別当実盛と瀬尾十郎兼氏が現れます。九郎助たちは木曾先生義賢の子どもを身ごもっている葵御前を匿っており、二人はその詮議のためやつてきたのです。実盛は平家の武將であるものの、源氏に恩がある身のため、計を案じ、葵御前が腕を産んだと話す九郎助夫婦に加勢して瀬尾を言い含め、先に帰します。

礼を言う葵御前に、実盛は片腕に見覚えがあると、そのいきさつを語ります。片腕は九郎助の娘 小万のもので、実盛が平家方より白旗を守るためにやむを得ず切り落としたものでした。

そのとき、地元の漁師が小万の亡骸を見つけたと運び込みます。片腕をつなぐと蘇生するも、太郎吉に何かを言いかけ息絶えてしまいます。

その後、葵御前は男子を産み、駒王丸と名付けられました。そこへ瀬尾が現れ、駒王丸を渡すよう命じ、小万の亡骸を足蹴にしたところで、太郎吉に刺されます。実は瀬尾は小万の実父で、孫の太郎吉に手柄を立てさせるために、自ら討たれたのです。

◆ 配役

|          |        |     |        |
|----------|--------|-----|--------|
| 齋藤別当実盛   | 細江 和彦  | 後見  | 今井 寛司  |
| 瀬尾十郎兼氏   | 桂川 幸雄  | 〃   | 田口 竹志  |
| 百姓 九郎助   | 小野塚 善博 | 〃   | 河原 一馬  |
| 九郎助女房 小由 | 田口 宏   | 〃   | 細江 麻美子 |
| 小万       | 今井 亜弥  | 〃   | 今井 賢郎  |
| 太郎吉      | 細江 駿斗  | 〃   | 今井 正規  |
| 矢走仁惣太    | 中村 宙樹  | 総括  | 細江 克也  |
| 葵御前      | 今井 吉春  | 附打ち | 今井 鋭昇  |
| 庄屋       | 桂川 隆行  | 道具方 | 細江 守   |
| 漁師       | 小野塚 輝  | 〃   | 今井 正人  |
| 〃        | 今井 絢哉  | 〃   | 田口 義明  |
| 〃        | 今井 政行  | 〃   | 今井 栄進  |
| 家来       | 細江 倍基千 | 〃   | 〃      |
| 馬        | 細江 健太  | 〃   | 〃      |
| 〃        | 細江 優弥  | 〃   | 〃      |

幕間の楽しみ

特別プログラム

「大道具を語る」

◆ 説明 舞台監督 山出 文男氏



ぎふ清流文化プラザで行われている地歌舞伎公演をはじめ、様々な地歌舞伎公演に舞台監督として携わってきた山出文男氏。日ごろは目にすることのできない舞台転換の貴重な様子を、ご覧いただきながら、地歌舞伎で使われている大道具について解説します。

「白雲座の地歌舞伎」

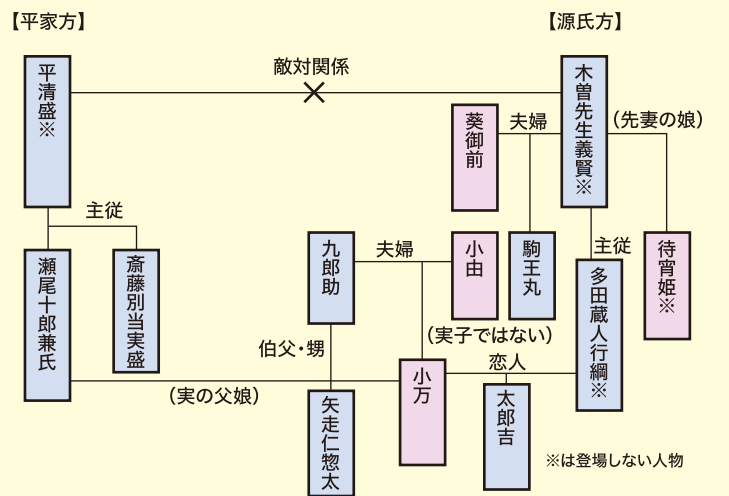
～地域の伝承文化を学び、受け継ぐ～

◆ 発表 岐阜県立 益田清風高等学校 二年生 田口 真江氏



地歌舞伎役者として小学二年生のころから白雲座の舞台に立つてきた田口真江氏。その経験を活かしまとめた論文が、第十五回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト（主催：國學院大學・高校生新聞社）の地域文化研究部門 個人の部で「優秀賞」を受賞しました。今回、白雲座歌舞伎保存会の公演にあわせ、その論文の発表と上演演目「実盛物語の場」の見どころについて紹介します。

源平布引滝 実盛物語



協力

|       |        |       |          |
|-------|--------|-------|----------|
| 振付指導  | 市川 福升  | 顔師    | 市川 紫女升   |
| 太夫    | 竹本 美芳  | 着付    | 林 まゆみ    |
| 三味線   | 豊澤 順八  | 小川 厚子 | 桑田 幸代    |
| 下座 長唄 | 杵屋 喜鶴  | 井本 治子 | 〃        |
| 鳴物    | 住田 喜久次 | 衣裳    | 美濃歌舞伎衣裳部 |
| 〃     | 鳳川 辰次  | 〃     | 〃        |
| 笛     | 小野崎 隆賢 | 〃     | 〃        |